

—ほうれんそう—

ほうれんそう

—— 発病・加害時期  
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名			月													
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
春	ま	き			●			■								
秋	ま	き		■				●	■			●	■		●	
立	枯	病														
萎	凋	病														
ベ	と	病														
ア	ブ	ラ	ム	シ	類											
ハ		ダ		ニ	類											
ヨ		ト		ム	シ											
ハ	ス	モ	ン	ヨ	ト	ウ										
ア	ザ	ミ	ウ	マ	類											

立枯病

留意事項

- 1 リゾレックス水和剤の成分トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数は1回。
- 2 バシタック水和剤75の成分メプロニルを含む農薬の総使用回数は2回（但し、種子への処理は1回以内、土壌かん注は1回以内）。
- 3 SDHI剤（**7**）は、薬剤耐性菌が出現しやすいので1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良好にする。
- 2 高温時は、寒冷しゃ等で遮光する。
- 3 雨よけ栽培を行う。
- 4 本ぼを土壌消毒する。（Ⅻ土壌消毒2(4)参照）
  - ・ **バスアミド微粒剤**、**ガスタード微粒剤** 劇 **1**
  - 【20～30kg/10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する は種10日前/1回】
- 5 下記の薬剤を施用する。
  - ・ **リゾレックス水和剤** **14**
  - 【苗立枯病（リゾクトニア菌） 種子重量の0.5%粉衣 種子粉衣 は種時/1回】  
 または【苗立枯病（リゾクトニア菌） 500倍 土壌かん注 は種時/1回】
  - ・ **バシタック水和剤75** **7**
  - 【苗立枯病（リゾクトニア菌） 種子重量の0.4% 種子粉衣 は種前/1回】または  
 【苗立枯病（リゾクトニア菌） 750～1500倍 土壌かん注 は種時～子葉展開時/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [タチガレン液剤](#) 3 2 【500～1000倍 土壌かん注 は種時／1回】

## 萎凋病（いちょうびょう）

### 留意事項

- 1 地温15℃以上で発病する。

### 防除方法

- 1 発病地では数年間作付けを避ける。
- 2 窒素質肥料の過用を避ける。
- 3 発病ほ場の土を未発病ほ場に持込まない。
- 4 発病の恐れのあるほ場では土壌消毒を行う。（Ⅻ土壌消毒2(4)参照）

- ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 —

【20～30kg／10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する は種10日前／1回】

- 5 下記の薬剤を施用する。

- ・ [ベンレート水和剤](#) 1 【2000倍 かん注 21日／2回】

## べと病

### 留意事項

- 1 春・秋に天候不順な年に発生が多い。
- 2 QoI剤（1 1）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 抵抗性品種を利用する。
- 3 排水を良好にする。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 は種前に、下記の薬剤を施用する。

- ・ [ユニフォーム粒剤](#) 4 1 1 【9kg／10a 全面土壌混和 は種前／1回】

- 6 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。

- ・ [ランマンフロアブル](#) 2 1 【2000倍 3日／3回】

- ・ [ピシロックフロアブル](#) U 1 7 【1000倍 前日／2回】

- 7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [レーバフロアブル](#) 4 0 【2000倍 3日／2回】

- ・ [アリエッティ水和剤](#) P 7 【1500倍 前日／2回】

## アブラムシ類

### 防除方法

- 1 ハウス開口部に防虫ネット（目合い0.8mm）を張り、成虫の侵入を防ぐ。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【3000倍 3日／2回】
- ・ [ダントツ水溶剤](#) 4 A 【4000倍 前日／3回】
- ・ [ウララDF](#) 2 9 【4000倍 前日／2回】
- ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【3000倍 14日／2回】
- ・ [リーフガード顆粒水和剤](#) 劇 1 4 【1500倍 7日／2回】

## ハダニ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ダニトロンフロアブル](#) 2 1 A 【2000倍 21日／1回】

## ホウレンソウケナガコナダニ

### 防除方法

- 1 使用する堆肥は、完熟のものを使用する。
- 2 は種前に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [フォース粒剤](#) 劇 3 A 【9kg／10a 全面土壌混和 は種前／1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【2000倍 3日／2回】
  - ・ [ネコナカットフロアブル](#) 1 0 B 【ケナガコナダニ類 1000倍 3日／2回】
  - ・ [カスケード乳剤](#) 1 5 【4000倍 3日／3回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【4000～6000倍 2葉期まで（14日）／1回】

## ヨトウムシ

### 防除方法

- 1 ハウス開口部に防虫ネット（目合い4mm）を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アグロスリン乳剤](#) 劇 3 A 【2000倍 7日／5回】
  - ・ [ノーモルト乳剤](#) 1 5 【2000倍 7日／2回】
  - ・ [BT剤](#) 1 1 A （Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

## ハスモンヨトウ

### 留意事項

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

#### 防除方法

- 1 ハウス開口部に防虫ネット（目合い4mm）を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アフーム乳剤](#) 6 【2000倍 3日／2回】
  - ・ [カスケード乳剤](#) 1 5 【4000倍 3日／3回】
  - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日／2回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) UN 【1000倍 前日／2回】
  - ・ [ベリマークSC](#) 2 8 【4000倍 株元かん注 7日／1回】
  - ・ [BT剤](#) 1 1 A（IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

### アザミウマ類

#### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

#### 防除方法

- 1 ハウス開口部に防虫ネット（目合い0.8mm）を張り、成虫の侵入を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ファインセーブフロアブル](#) 劇 3 4 【2000倍 14日／2回】
  - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 4 A 【4000倍 前日／2回】
  - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5 【5000倍 前日／2回】
  - ・ [リーフガード顆粒水和剤](#) 劇 1 4 【1500倍 7日／2回】

### シロオビノメイガ

#### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
  - ・ [カスケード乳剤](#) 1 5 【4000倍 3日／3回】
  - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5 【5000倍 前日／2回】
  - ・ [ディアナSC](#) 5 【2500～5000倍 前日／2回】
  - ・ [ベリマークSC](#) 2 8 【4000倍 株元かん注 7日／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。